



創立151年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和6年 7月号

児童数382名 文責 澤村幸夫



本物に触れる体験



「わにっこり6月号」で紹介した学校のつばめの巣ですが、左の写真のようにヒナが孵りました。親鳥が交代でせっせとエサを与えています。児童の登校時と下校時に校門下の横断歩道付近に立っていると、学校の周辺の民家の軒下にも、多くのつばめの巣があり、親鳥が忙しそうにヒナにエサを与えています。親鳥がエサを探しに行っている間、ヒナは巣の中で待ちますが、私が巣にそっと近づくとヒナ鳥がかわいい顔を見せてくれます。外敵（カラスや他の鳥、ヘビなど）からヒナ鳥を守るためには、そっとではなく、堂々と巣に近づいていく方がよいのだと思いますが、エサを運んでくる親鳥たちは、どうにも心配そうな様子に見えます。

やがてヒナは巣立ちを迎えます。しかし、巣立ったからといって自分でエサがとれるとは限らず、1週間ぐらいは親鳥からエサをもらうヒナもいます。ヒナが巣立ったあと、つばめは2回目の繁殖をすることがあり、夏までには全てのヒナが巣立つとされています。つばめが繁殖を終え、南国に渡るのは9月頃で、フィリピンや台湾などの東南アジアへ数千kmの旅をします。近年では、自然環境の変化や巣作りできる場所の減少により、日本に渡るつばめの数自体が減少傾向にあると聞いて、どうにかならないものかと思っています。

さて、時代が移り変わる中で、私たちの生活は豊かになりました。スマートフォンやインターネットの発達により、デジタル機器を活用すれば、瞬時に映画や音楽を流すことができ、多くの情報に触れることができます。学校教育においても一人一台の端末によって、授業のあり方そのものが大きく変わろうとしています。一人一台の端末がなかった授業ではできなかったことが、効率的にできるようになり、活用方法も日々進化しています。アナログ時代に育った私は、アナログとデジタルのベストミックスを考えていますが、アナログにある「無駄」の大切さに目を向けることが大切であると最近強く感じるようになりました。効率的な教育を受けた子どもたちはタイムパフォーマンスを重視し、「無駄」の良さや楽しさを自覚する機会を奪われているように感じます。やはり、教育には効率を求めるだけでなく、手間暇をかけて「本物に触れる体験」が必要です。

自分で体験すれば、そこに「楽しかった」「おいしかった」「ザラザラしていた」「不思議だった」といった感想が生まれます。同時に「こうしたらどうなるだろう」「こうだったらいいのに」といった疑問や考えが浮かびます。時間がかかるかもしれませんが、自分の手や体を使って体験したことは、記憶に残り、なかなか忘れません。「実体験」というと旅行や校外学習を想像する人もいますが、むしろ日常的に身の回りにある環境に目を向けていきたいと思います。授業では、身の回りの体験から何らかの気づきや発見を得て「何だか面白そう!」と感ずることで、より主体的な学びに近づく原動力になると確信しています。



学校のシルバーアロワナ
本文との関連はありません。

音楽会 6/12

6月12日(水)に「音楽会」が開催されました。各学年がめあてをもって、本番に向けて一生懸命練習してきました。また、他学年の発表を聞くことができました。進行をすべて子どもたちの手で行えたことも、すばらしかったです。本番の様子を

短い動画にまとめましたので、左の QR コードからご覧ください。

音楽会ダイジェスト

紙面配布のみ表示



期間限定 7/1~8/31



1年生 アサガオの観察

1年生はアサガオを育てています。たっぷりの水と太陽の光をいっぱい浴びて大きく成長しました。絵やことばで、気づいたことを観察記録に書いています。



2年生 ミニトマト栽培

2年生はミニトマトを栽培しています。花を咲かせ実を付けます。真っ赤な大きな実がいくつもできました。



3年生 里山の学習



3年生は、栗原在住のゲストティーチャーに來校いただき、里山の生活について興味深い話を聞くことができました。自然環境保護はとても大切です。

4年生 花植え体験

4年生は、地域の皆様とともに、ベゴニアの花を植えました。このプランターは和邇小学校の玄関をはじめ、園や公共施設に置かれます。花いっぱいの和邇地域になるように、大切に育てていきたいと思ひます。



5年生 ソーイングはじめの一步

5年生の家庭科では、小物づくりに取り組みました。名前や模様を一生懸命縫い付け、オリジナル作品を作りました。



6年生 奈良校外学習 6/14

6年生は、奈良へ校外学習に出かけました。平城宮跡や東大寺の見学を行い、本物に触れる中で社会の学習を深めました。当日の様子をダイジェスト版にまとめましたので、左の QR コードからご覧ください。

奈良校外学習

紙面配布のみ表示



期間限定 7/1~8/31



和邇小学校の
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。また、「校長室より」を開設しましたので、ご覧ください。

シリーズ 「未来への扉」 第4弾 「親子の対話」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人（親や教師）はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。



学校のポリプテルスセネガルス
本文との関連はありません。

第4弾は「親子の対話」についてです。まだ幼さが残る6歳から思春期に向かう12歳まで、小学校時代はずいぶん長いですが、人として生きていく基盤をつくる大切な時期です。学校での生活や習い事など、家の外での活動がどんどん増え、毎日新しいことに出遭い、たくさんの刺激を受けて成長していきます。そういった外での活動のための力を蓄えるのが、家庭の中での過ごし方になると思います。

私たち人間は、決して一人だけでは生きられません。多くの人に支えられ、自らも人と関わりながら生きています。これからの時代では、人との関わりは、ごく身近なところでの関わりから、もっと広いグローバルなものまで多様になるはずです。

人と関わるうえでは、喜びだけではなく、困難なことにも遭遇すると思います。意見が食い違ったり、理解してもらえなかったり、誤解を招いたり、理不尽な思いをすることもきっとあると思います。しかし、家庭の中で温かく見守られながら、愛情をたっぷりもらって成長することができれば、生きることは基本的には楽しいこと、世の中には困難なことだけでなく、嬉しいことや素敵なこともたくさんあるのだと実感できます。そして、困難な状況でも希望を見失わずに、次の一步を踏み出せると思います。

今、世界の情勢は、不確実で予測が難しい方向に向かっていきます。人工知能（AI）をはじめとする技術革新はますます進展していきますが、そうした状況の中で、一人一人が自身の置かれた状況で、物事を自身の問題としてしっかり考えることが求められるようになってきました。

日常生活の中から自ら問いを立て、知ろうとしたり解決しようとする姿勢を持つことで、自分らしく幸せに生きていくことができるのではないかと思います。ぜひ、ご家庭の中で、たくさんの対話をして、その子の考えを尊重していただきたいと思います。

対話とは、「テーマを決めてお互いに意見を交わすこと」と記されていますが、対等な立場で向き合って話すことが大切だと思います。あまり堅く考えずに、普段の会話を少し落ち着いてじっくり語り合うイメージでどうでしょうか。私は親子間でも対話は可能だと思いますし、対話が実現したら素晴らしいと感じます。学習についても、結果だけに注目するのではなく、今、学校で学んでいる内容について興味を持ち、話をすると、子どもにとっての学びの世界はどんどん広がります。無理やりやらされる勉強から、自分でやってみたいと思う興味ある学習への転換です。

私を含め人間は、自ら考えて取り組むことで、常にブラッシュアップされていきます。それはつまり、常に新しい自分になること、常に自分の殻を破っていくことにつながります。そのためには、対話が必要なのです。



学校のカクレクマノミ
本文との関連はありません。